

●會費領收

四十五年度分

西村 菊枝 長谷川 島

伊地知あくり 青山 花

大正二年度分

大池ふさよ 森 さみ 川村 はな 筒井 たか

高橋 スエ 渡邊 梅 小堀 くま 吉永 ふみ

五十四

市瀬 ふき

中川 絹重

堀尾 こめ

加賀山 貞

長谷川すが

岩田 文

樫部 鳥羽

大竹 千葉

岡田 久

山川はつの

淺田 房野

堤 ハナ

平野 サト

水野 のり

源 みい

橋本 せん

西村 菊枝

淺田 季

大正三年度分

大池ふさよ

渡邊 梅

交 詢

●母校たより

◎藤の實長くなりし嬉しき日はいよ／＼近寄申候年毎に仰き見る人は異り行けど仰がる藤にも仰ぐ人の心にも何の變りも之なく候例の公孫樹も相變らず巨人の如くに突つ立ち居り萬斛の涼味をそゝろ歩るきの袂に送りくれ居候。

◎例により母校の状況いさ／＼か御報道申上候東台の櫻花漸く紅潮を呈し初め 三月二十七日卒業生を送るための心はかりの會を開き申候折か

らの事とて何も／＼差控へ唯君達の望多き前途を祝し奉り我等が別れの悲しさを表するに止め申候。此の夜中島先生の御懇篤なる御話之あり候。最後の御訓辭卒業の諸姉には如何にか聞き給ひけむ。今は北海のはてに南島の隅に朝な夕なに思ひ出で給ふて其の通りに御實行遊はされ居候事と存じ候。

た悲しげにふりかへり／＼出で行かれ候に送りまつる身は辛らけれど門に倚り閨に立ちて待ちわび給ふ父君母君の御心のほどを察しまつりていさぎよく御別れいたし候。

◎東校舎の増築も既に落成いたし候へば四月十一日より教室は全部新築校舎に移され申候煉瓦造ならぬ恨めしさに赤き塗色をいたく悪みて稻荷様などがなき事申し居候ひしが明るき空氣の心よき新木の香のなつかしさなごさすがに心のうれしさはほ／＼笑みに流れ出で申候。

◎四月二十三日日米交換教授のため來朝せられしビーボーデイ博士の御講演を承るの光榮に浴し申候博士は米國ハーバード大學の教授にて令名高き御方のよし令嬢御同伴穏やかなる微笑を湛えて臨席せられ候流暢なる辯舌もて女子教育の目的及理想につきて述べられ候壇上に立たれたる肥大の溫容に接し候へば何となく親しみの通ふ心地せられてある一種の感想のそゝろに湧きいで申候。米國知名の紳士より講話を承る事先きにメ博士あり本年に入りてより既に二回に

及び申候。

◎例年よりやゝ遅れて五月十一日の夜四年生は京阪旅行の途につき申候二年の鎌倉旅行も其の留守中にすまされ二十日には皆々歸りつき土産話に淋しかりし舍内も又もとの賑はひに返り申候

◎技藝科の主任として慈父の如くに慕はれ給ひし黒田定治先生には去る六月二日府下豊島師範學校長に轉任の命を受けられ偉大なる御功績を殘して當校を去られ申候ラケット手にし給へる溫容をテニスコートに御見かけ申さぬ事此の頃何となく物わすれせしやうの感いたし候。

◎長年附屬高女主任たりし篠田利英先生不慮の御負傷のため六月の中旬突然御辭職遊ばされ本校は有力なる二先生を失ひ申候。

